

2025 年度 第 1 回神戸市校区調整審議会 議事要旨

(北区の既設校における中学校校区の変更について・指定学校の変更を認める地区の指定について)

○北区の既設校における中学校校区の変更について

質 問	説 明
就学希望選択制ではなく校区変更を実施するのはなぜか。	小学校の進学先の中学校が複数校に分かれることに問題認識を持っていたが、この校区では、人口分布が変化したことで、南五葉小学校のうちごく少数が鈴蘭台中学校に進学する状況になっていた。また、こどもや保護者から校区変更を求める切実な声が上がっていた。これらのことから校区変更を行おうとするものである。
保護者説明会での保護者の反応はどうだったか。	校区変更の実施に反対する意見はなく、概ね理解をいただいたが、校区変更後も鈴蘭台中学校に通いたいという意見も数件あった。
校区変更後も鈴蘭台中学校に通いたい子供がいる場合は鈴蘭台中学校を選ぶことはできないのか。	原則、校区変更実施後は星和台中学校に通学することとなる。例外的に、兄弟が鈴蘭台中に在籍している場合に弟妹が入学する場合や教育的な配慮が必要と認められる場合は、指定学校の変更の手続きを利用して鈴蘭台中へ通うことができる。
通学の安全性はどうか。	校区変更を実施した場合、南五葉町 1 ～ 2 丁目から星和台中学校への通学には幹線道路（長田箕谷線）を横断する必要があるが、歩道橋や信号機のある横断歩道が整備されているため、特に支障はなく通学できると考えている。

○指定学校の変更を認める地区の指定について

質 問	説 明
鹿の子台小学校・北神戸中学校以外の近隣校を対象校としないのはなぜか。	就学希望選択制については、八多学園の小規模対策という目的だけでなく、鹿の子台小及び北神戸中の大規模校対策という側面もある。また、八多学園に近い西山小校区や藤原台小校区の検討も行ったが、両校とも将来児童数減少が進むことを懸念して、八多学園への就学希望選択制を実施する方向に意見がまとまらなかった。
複式学級になるのであれば不安になる保護者もいると思うが、就学希望選択制に関心のある保護者はどれくらいいるのか。	学級編制基準上は複式学級になる人数でも、実態は、各校が様々な工夫をしながら 1 学年 1 教室で学校運営を行っている。なお、保護者説明会への参加者のうち、八多学園への入学に関心を示す保護者が一定数存在した。
八多学園はどのような魅力があるのか。	前期課程（小学校）1 年生からの外国語活動や後期課程（中学校）教員による前期課程児童への教科指導など特色ある教育を行っている。また地域資源を活かした地域学習も積極的に行っている。
小規模特認校としないのか	小規模特認校では、校区外から就学できる要件のひとつに、原則として、児童が公共交通機関を利用し、自力でおおむね 1 時間以内で通学できることとしている。 八多学園の場合は、隣接校区以外から通学する場合は電車・バスの乗り継ぎが必要で、公共交通機関を利用した通学に時間がかかりすぎることから、小規模特認校とすることは難しい。
意 見	
大規模校の環境よりも小規模校のゆったりした環境が合っている子供もいると思うので、就学希望選択制を実施することで子供たちの選択肢が増えるのは良いことだと思う。	